

志太ビジネスプランングランプリ大賞に宮園さん

◎商工課 ☎54・5760

2月8日に「第6回志太ビジネスプランングランプリ」の最終審査会が行われ、金谷栄町で会社を経営する宮園義美さんが大賞を受賞しました。同グランプリは、志太地区の起業や新たなビジネスへの進出をサポートする目的で、島田市と藤枝市が主催しています。宮園さんは、神棚などに使われる榎の95%が輸入に頼っている現状に着目。「神棚には日本の榎を供えてほしい」との思いから、農業として榎の栽培を体系化・ブランド化し、耕作放棄

地を活用して高品質の国産榎を育てるプランが評価されました。

宮園さんは「この事業は、これからがスタート。大賞の名に恥じないよう頑張りたい」と意欲を見せました。



表彰される宮園さん

ICT教育の未来を考えるシンポジウム開催

◎戦略推進課 ☎36・7127

市の産官学が中心となり、26団体で構成されている島田ICTコンソーシアムが、2月13日にしまだ音楽広場でシンポジウムを開催しました。

パネル討論では「産官学+地域が一体となった人材育成の実現に向けて」をテーマに、国立教育政策研究所の鹿野利春氏ら有識者6人が登壇。それぞれの立場から意見を述べ、これからのICT教育について議論を深めました。濱田教育長は「プログラミン

コンソーシアムが産官学のメリットを生かし、地域に根付く人材育成に寄与してほしい」と期待を寄せました。



意見を交換するパネリスト6人

ふじのくに茶の都ミュージアムで茶の祭典を開催

◎農林課 ☎36・7409

「Asia-Pacific Tea Expo 2019 in Japan」が3月3日に「ふじのくに茶の都ミュージアム」で開催されました。

これは、茶の機能性・文化・習慣・経済などの技術革新に関わるさまざまな人たちとの交流を目的に、日本で初めて開催。台湾やタイなどの茶業関係者が来島し、茶道体験や市内茶工場を紹介するとともに、島田市のお茶の魅力を世界に発信しました。

会場には、市内や海外の茶業関係者が多数出席。ステージイベントでは、T-1グランプリの各地区チャンピ

オンが日本茶を淹れたり、台湾茶協会が台湾茶を淹れたりして、観客に振る舞いました。



台湾茶と日本茶を飲み比べ

台風による停電を防ぐ「事前伐採モデル事業」を実施

◎危機管理課 ☎36・7143

2月26・27日、倒木による停電を防ぐためのモデル事業として、市・中部電力・自治会などが連携し、伊久美地区で電線付近の樹木を伐採しました。

これは、昨年9月末の台風24号で、地区内の倒木が電線を切断し、数日間にもわたり起きた停電被害を受けて実施したもの。市が関係機関と地元住民を仲介して調整会議を開催し、初回の作業として、3カ所14本を伐採することになりました。当日は、市職員や中部電力社員ら20人が作業

に参加し、高所作業車やクレーンを使い、電線にかかる樹木を伐採・切断しました。4月上旬には、残り2カ所約40本を伐採する予定です。



高所の樹木を伐採する作業員